記念講演

「賀川豊彦と協同組合」

賀川記念館　賀川督明 館長

講演に立った賀川督明館長は、賀川豊彦のお孫さんにあたります。賀川豊彦の生涯をかけた活動をていねいにふりかえりながら、国際協同組合年にあたり、あらためて賀川の思想から学ぶべきものについて、お話をいただきました。

賀川記念館 賀川督明 館長

賀川豊彦は、1909年、神戸のスラム街に入り、救貧・防貧活動を開始しました。その活動は、教育・医療・給食・宿泊・相談・職業紹介など、多方面におよびました。

1918年、米国での神学研究を終えて帰国したのちは、労働運動・農民運動にたずさわり、1920年日本最初の消費組合である共益社を、翌年には神戸購買組合・灘購買組合を設立しました。

賀川豊彦とその仲間たちの活動は、神戸にとどまらず、関東大震災を契機に全国に広がりました。福祉・教育・医療・生産・労働・協同組合・平和・人権・共生という、人間のくらしを支える土台となる課題について、開拓者的な役割をはたしました。

賀川督明館長は、「一人は万人のために、万人は一人のために」という言葉の意味をあらためて考えあいながら、「総合性」という視点、「弱い立場の人びと、痛みをもつ人びと」の立場に立って物事をみていくという視点が重要であるとのべられ、講演を結ばれました。

「思い出・賀川豊彦さんとの出会い」

京都府生活協同組合連合会　横関 武 顧問

京都府生協連 横関武 顧問

横関顧問は「生まれつき視力がほとんどなく、軍国主義の世の中で兵隊になれない障害者は人間扱いされなかった」「戦後、みずからの生き方に悩んでいた青年期に賀川さんに出会った」と、冒頭にのべました。

賀川豊彦からすすめられて同志社大学神学部に入学、「賀川さんから、労働運動・農民運動・福祉運動、なかでも生協運動について熱をこめて教えていただいた」。

「賀川さんは、私が牧師になることをのぞんでおられたが、キリスト教の勉強だけでなく、当時は社会福祉にかんする勉強や運動に心をひかれていた」。「賀川さんは『それなら神戸生協を紹介するから、その方面で働いてくれ』といわれたことが、私の生協人生のスタートになった」「『平和とよりよき生活のため』というスローガンを知り、感動し、賛同した」と話されました。

京都府立大学公共政策学部・上掛利博教授（京都府生協連理事）、小林智子会長理事が聞き手役をつとめました。

◇　◇　◇

横関　武さんのプロフィール

1929年生まれ。1954年同志社大学卒業、神戸生協（現コープこうべ）入協。以降、同志社大学生協専務理事、京都生協理事長、京都府生協連副会長理事、日本生協連副会長理事などを歴任。

◇　◇　◇

当日は、京都府立大学邦楽部のみなさんがお祝いの演奏をしてくださいました。

やあ、おひさしぶりですね。

◇　◇　◇

第1部・記念式典の司会は、京都府生協連・沼澤明夫常任理事が担当しました。

第2部・レセプションの司会は、京都府生協連・廣瀬佳代常任理事が担当しました。

いつも、お世話になっております。